

りそなグループのサステナビリティの取組み

りそなグループの「役割」と「目指す姿」

果たすべき役割

リテールを中心とするお客さまのSX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）※を金融サービスを通じて担うこと

お客さま一社一社、一人ひとりのお取り組みを、社会全体のSX※実現に向けた大きな社会的インパクトに変えていくこと

目指す姿

お客さまよりそなも、変化への対応力を備えたビジネスモデル、ライフスタイルへ進化を遂げること

お客さまのSX※に最も貢献する企業になること

※当グループでは「持続可能な社会に向けた世の中の変化を先取りし、企業のビジネスモデルや個人のライフスタイルを自ら変化させていくこと」と整理しています

サステナビリティ 長期目標

詳細はこちらをご覧ください



リテール・トランジション・ファイナンス※目標

2021年度～2030年度までの累計取扱高10兆円

※トランジションとは、現在の状態から次の状態に移行・変化する事。お客さまの意識・行動のトランジションに向けて、現在地からの着実な前進に資するファイナンスを称しています

当グループにおけるカーボンニュートラル目標

自社調達電力の再生可能エネルギー化を積極推進し、当グループのエネルギー使用に伴うCO₂排出量を2030年度までに実質ゼロにする

投資
ポートフォリオの温室効果ガス排出量
ネットゼロ宣言
2050年までに投資ポートフォリオの温室効果ガス排出量の
実質ゼロを目指します

2023年5月、新たに複数長期指標を追加

当グループにおける女性登用・活躍推進・拡大目標

2030年度までに
●りそなホールディングスの女性役員比率30%以上
●グループ5社の女性経営職階比率20%以上
●グループ5社の女性ライン管理職比率40%以上

主な実績はP.18をご覧ください

埼玉県
SDGsパートナーに
登録されています



2030年SDGs達成に向けたコミットメント

金融サービスを通じて、活力あふれる地域社会の実現に貢献していくため、りそなグループとして優先的に取り組むべき環境・社会課題を特定し、コミットメントを公表しています



詳細はこちらをご覧ください

優先的に取り組むべき環境・社会課題

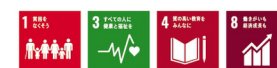
地域

地域経済の活性化



少子高齢化

少子高齢化に起因する将来不安の解消



環境

地球温暖化・気候変動への対応



人権

ダイバーシティ&インクルージョン



お客さまの声をぜひお聞かせください

本誌に関するアンケートを実施しています

お手数ですが、下記URLまたは二次元コードよりアンケートの送信をお願いします

<https://www2.resona-gr.co.jp/seminar/saitamaresona/seq250016/index.html>

埼玉りそな銀行TODAYで
もっと知りたいことを
送ってみましょうか



埼玉りそな銀行のホームページもご覧ください [埼玉りそな銀行Q](#)

発行/2025年7月 株式会社 埼玉りそな銀行

〒330-9088 埼玉県さいたま市浦和区常盤七丁目4番1号 TEL 048-824-2411(代)



SAITAMA RESONA TODAY

2025 ミニディスクロージャー誌

特集

真の道德銀行へ。

金融の枠を超えた
「地域共創」への挑戦

埼玉県の皆さまに信頼され、
地元埼玉とともに発展する銀行を目指して



埼玉県
SDGsパートナー

- 1 トップメッセージ
- 3 特集
- 11 個人・法人のお客さまへ
- 13 ネットワーク
- 15 エリア情報
- 17 埼玉県からのお知らせ
- 18 情報ディスクローズ



代表取締役社長
福岡 聡

RESONA Group Purpose

金融＋で、
未来をプラスに。

社会がどのように変わっても、
安心して前を向けること。
希望を持って踏み出せること。

そのために私たちは
一つひとつの地域に寄り添い、
金融の枠にとどまらない発想で
小さなことでも、大きなことでも、
未来をプラスに変えていく。

たくさんの安心と希望、
そしてワクワクする未来のために、
私たちりそなは、変革と創造に挑み続けます。

2023年5月制定

「埼玉県の皆さまに信頼され、
地元埼玉とともに発展する銀行」
～「真の道德銀行」を目指して～

皆さまには、平素より埼玉りそな銀行をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

時代は、気候変動や少子高齢化といった連続する変化と、地政学的問題や不透明な経済情勢等の非連続の変化が交錯する中で、短期的には原材料の高騰や金利の上昇等かつてない複雑な歴史的構造転換の中にあります。

このような環境変化に伴い発生する課題を解決していくためには、企業・個人・地域、そして行政など多様な主体が協力し、価値を共に創り出す“共創”が求められます。

2023年5月、りそなグループは「金融＋で未来をプラスに。」をパーパスとして掲げる中期経営計画を公表いたしました。そのうえで当社においては、『価値の良い流れを創り出す』共創社会のハブへと進化する3年間と位置づけ、「安心で豊かな社会の実現」、「持続的な成長への貢献」、「魅力ある埼玉の創造」を共創価値と捉え、“広く、深く、長く”プラスの価値を創り出す具体的な挑戦を続けています。

原材料の高騰や金利の上昇等による個人のくらしや企業経営への様々な影響が懸念される中、個人のこまごごとに寄り添う「くらしコンシェルジュ」、経営の思考に寄り添う「経営支援リーダー」は、銀行サービスの領域にとどまらず、お客さまの様々なこまごとにお応えすべく伴走型の取り組みを継続しています。

同時に地域のこまごごととして未来を担う子どもたちのために実施しているフードドライブ活動における寄贈数はこれまで

に累計約4万点となるほか、ブックドライブや洋服の譲渡会等への参加、また外国にルーツのある子ども向けのランドセルの寄贈数は累計300個を超えるなど活動は広がりを見せています。銀行の施設を利活用した地域共助のハブ拠点である「りそな YOUTH BASE」をはじめとする共創空間の拠点数も7拠点に拡大し、様々な地域での活動をNPO法人等の団体様と共に実施しています。

また、複雑化する地域のこまごごとをデザイン思考で捉え、“広く、深く、長く”地域の発展に伴走していく会社「地域デザインラボさいたま（愛称：ラボたま）」は、おかげさまで3周年を迎え、魅力溢れるまちづくりに向けたコンサルティング支援や地元企業とのビジネスコンテストの共同開催等、従来の銀行の枠を超えた価値の共創に一層力を注いでいます。

“共創”とは互いの理解と信頼を基盤とし、対話と協働を通じて社会全体の発展に結びつける点で、当社にその理念が息づく渋沢翁が掲げた「道德経済合一」の未来志向的な形と言えます。我々地域金融機関の発展は、経済・社会の発展があってこそ成り立つものです。未来に自信と覚悟を持ち、埼玉県が目指す「日本一暮らしやすい埼玉」の実現に向け、役職員一丸となり、思いやりと挑戦の精神で取り組んでまいります。

今後とも、より一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2025年7月



渋沢栄一翁筆の扁額「道德銀行」

当社の源流の一つである黒須銀行の創立15周年を祝して、渋沢栄一翁から贈られた書。黒須銀行は、庶民の道德の結晶である貯蓄を資本としていること、学校には有利な利子をつけ、利益の中から寄付を行っていること等により、世間から「道德銀行」と呼ばれました。

りそなグループの構成図（概略）2025年4月1日時点



会社概要（2025年3月31日現在）

名称 (英文名)	株式会社 埼玉りそな銀行 (Saitama Resona Bank, Limited)
本店所在地	埼玉県さいたま市 浦和区常盤七丁目4番1号
代表者	社長 福岡 聡
従業員数	3,136人
資本金	700億円
株主 (持株比率)	株式会社りそなホールディングス (100%)
設立日	2002年8月27日 (営業開始日2003年3月3日)
有人店舗数	127店(うち埼玉県内124店)
店舗外ATM	274ヶ所

※()内は持株比率

金融の枠を超えた “地域共創”への挑戦

2023~2025年 中期経営計画

魅力ある埼玉の創造

安心して豊かな社会の実現

持続的な成長への貢献

地域課題解決件数

146件 +66% UP

リテール・トランジション・ファイナンス実行額

9,078億円 +61% UP

金融教育受講者数

38千人 +151% UP

積立投信利用先数

78千人 +17% UP

決済関連収益

187億円 +5% UP

資産承継ストック件数

18千件 +11% UP

2024年3月末比

『価値の良い流れを創り出す』共創社会のハブへと進化する3年間

社会課題・環境変化

- 少子高齢社会
- 地域経済の活性化
- 産業構造の変化
- デジタル化の加速
- 貯蓄から投資へ
- 気候変動
- 企業の社会的責任の高まり
- ライフスタイルの多様化 等

埼玉県5か年計画

日本一暮らしやすい埼玉へ

共創価値

安心して豊かな
社会の実現

事業・暮らしの安心
金融リテラシー向上
安心・安全な金融インフラ

持続的な
成長への貢献

挑戦への伴走
変化への対応
次世代への発展的承継

魅力ある
埼玉の創造

地域課題の解決
人・企業の流入
誰もが輝く社会

「広く」「深く」「長く」『プラス』の価値を創出

創業以来の
目指す姿

「埼玉県の皆さまに信頼され、
地元埼玉とともに発展する銀行」

『日本一暮らしやすい埼玉』の実現

魅力ある
埼玉の創造

Co-Creation Value

地域課題へのアプローチ

地域とともに、地域の課題を
解決するパートナー

地域デザインラボさいたま

まちづくり、河川利活用、空き家対策などの分野に加え、観光関連、
地域DX関連など新たな領域にも挑戦しています。2024年5月には、
りそな コエドテラスの運営を開始しました。

設立3年半で
多数アプローチ

実績 **74件**



▲公式HP



LABTAMA.OFFICIAL



CLOSE UP

新ランドマーク「りそな コエドテラス」

埼玉の魅力を川越から発信

2024年5月15日、国の登録有形文化財である旧川越支店が、地域の未来
を豊かにするインキュベーション&地域魅力発信拠点「りそな コエドテラス」
として誕生。新たな産業創出と起業家育成を目的とした施設、チャレン
ジショップ、地元食材を扱うカフェやレストランを設置。各種イベントを開催
しています。

新たな産業の創出

地域企業との連携
起業家の育成

埼玉ブランドの発信

飲食店(地域食材使用)
特産物販売

地域の賑わいの創出／豊かな暮らしの実現

産業創出事業



ブランディング事業



賑わい創出事業



りそなグループ社員が常駐するインキュベーション・
コワーキング施設の詳細はこちら



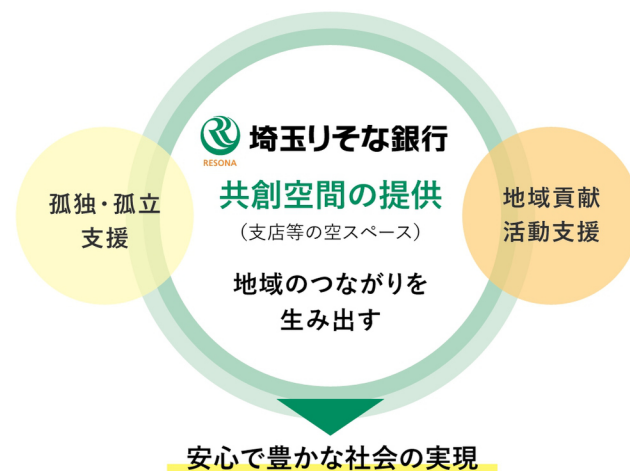
りそな コエドテラス公式HP
コエドテラスの“今”と“魅力”をまるごと紹介中です



銀行業務を超えた新たな 価値の提供

誰もが安心して暮らせるまちづくり

街に開かれた地域と共創する空間、地域社会への+の価値提供に向け、銀行の余剰スペースの利活用を行っています。地域のこまりごとを解決するため、銀行の空間を活用し、地域のつながりを生み出すことで、安心で豊かな社会の実現を目指しています。



銀行という枠を超え、地域と新たな価値を創り出す空間

Case
1

白岡支店 | 2024年10月 新築移転オープン 共創空間でつなぐ地域支援

2カ月に1回の頻度で開催されるフードパントリーの開催場所として共創空間を提供しているほか、2025年5月の白岡市役所の火災発生の際は、市役所内で予定されていた販売会の会場としても活用されました。また、創業支援セミナー等、地域経済の発展に向けた取り組みも行われています。



Case
2

三郷菜の花ガーデン | 2024年3月 三郷支店3階にオープン 共創空間が育む学びと交流

働く女性がキャリアや働き方についてコミュニケーションを取ることで、多様な働き方を知り、自分らしくいきいきしたキャリアプランを描く機会を設け、他社の取り組みを共有することで女性従業員の働きやすさ向上へ繋げることを目的に、「働く女性異業種交流会」が開催されました。



CLOSE UP

広がる りそな YOUTH BASE の取り組み

地域とともに創る、子どもの居場所

さまざまな理由で居場所を必要としている子どもたちがいます。そんな子どもたちが「また来たい」と思えるような居場所を地域の方々と共に創り出すことで、孤独・孤立の問題に向き合っています。地元埼玉の未来を担う子どもたちが健やかに笑顔で成長することこそが一番の願いです。

- 子どもたちへの
学習支援
- 支援団体等との
ボランティア活動
- 子ども支援団体への
無償貸出
- 食事提供による
孤食の防止
- 特別な体験を通じた
思い出づくり



とある 1週間の 利用状況	月	16:00～19:00	子どもの居場所
	火	17:00～20:00	学習支援教室
	水	17:00～20:00	地域ネットワークの交流会
	木	17:00～20:00	学習支援教室
	金	-	
	土	13:30～16:30	多文化学習支援教室
	日	-	



衣類譲渡会や親子の居場所を提供する団体等へ貸出しています。



子どもの居場所・学習支援に取り組む団体等へ貸出しています。

INTERVIEW

共創社会の
ハブの役割

対談

YOUTH BASEをきっかけに トレーニー制度[※]を創設 ～銀行業務から離れ、多様な価値観を養う取り組み～

◎トレーニー制度を通じた気づきと地域とのつながり

高井 これまで銀行業務を経験する中で、支店でのフードドライブ活動を通じて社会貢献に関心を持ち、銀行のトレーニー制度によるNPO法人への出向に応募しました。銀行業務とは異なるフィールドに触れてみたいという想いがきっかけでした。

草場さま 実際に現場に足を運ぶことで気が付くことが多くあります。子ども支援の現場を体験してもらうことは大変意義があり、活動を外から見て感じたことがあれば、ぜひ共有してほしいと思っています。

高井 こども食堂やフードパントリーについて知っていたつもりでしたが、実際に参加すると、見えない裏方の業務

が多くあることに驚きました。単に食料を届けるだけでなく、配送や検品、仕分けといった作業が欠かせません。銀行がもっと力になれることはないだろうか強く思いました。
草場さま 現場で何が起き、何が求められているのかを理解してもらえることは非常にありがたいことです。支援する側とされる側に分かれるのではなく、同じ目標に向かって共に考え、進めていく「共創」の姿勢が理想です。

◎出向後の取り組み

高井 出向を通じて、支援団体の認知度不足や、必要とする人に情報が届きにくいことを実感しました。支店に戻ってからは、戸田支店のロビーに子ども支援団体のチラシやポ

スターを掲示し、地域の方々に情報を届ける取り組みを始めました。実際にそれを見た企業の方からの問い合わせもありました。銀行は多くの方が訪れる場なので、今後も地域活動を紹介する工夫を続けていきたいと考えています。

草場さま ロビーでの展示の話聞いて、とても嬉しく思いました。多くの人の目に触れる場所で支援の輪が広がるのは、本当にありがたいことです。

◎ YOUTH BASE の役割

高井 草場さんにとって、YOUTH BASEとはどのような場所ですか？

草場さま ここは、子どもたちが安心して来ることが出来る居場所であり、学びや出会いの場でもあります。先生のように寄り添ってくれる大人や学生がいることで、「自分もやってみよう」と子どもたちの背中を押せる空間になりつつあります。この場所があることで、子どもに関わりたけど方法がわからない大人と、居場所を必要とする子どもたちが出会えるんです。まさに地域のランドマークのような存在です。一人ひとりの子どもに寄り添い、その子の状況を理解し、一緒に考え、サポートしていけたらと思っています。
高井 銀行としても、引き続きできることを探し、地域とともに歩んでいきたいと思っています。

※埼玉りそな銀行の共創人材トレーニー制度とは：NPO法人の活動体験や支援を通じ、社会課題や活動の実態を学ぶことで、

社会課題に対する視野を広げるとともに、共助意識の醸成や課題解決力養成に繋げる研修制度



子どもから大人まで。 社会課題を踏まえた学びを提供

生涯にわたる生活の質の向上

近年、金融リテラシーの重要性が高まる中、埼玉りそな銀行では地域の皆さまの暮らしに寄り添い、将来に役立つ知識を育むための金融教育に積極的に取り組んでいます。学校や地域と連携し、世代を問わず幅広い層への学びを提供しています。



地域のみなさまの
金融リテラシー
向上支援

暮らしや社会の安心を創出

未来を担う子どもたちの
自立できる力を育成

貧困・金融犯罪への対応

安心で豊かな
社会の実現

各世代に合わせた“全方位型”の金融教育で、金融リテラシーを向上

※金融リテラシーとは：お金に関する知識や判断力

小学生・中学生のみなさまへ

従業員が講師のマネーアカデミー。 “楽しみながら学べる”お金と経済

オリジナルのクイズやゲーム、講義を通して、お金や働くことの大切さ、銀行の役割等について伝えています。銀行の職場見学やロビー体験などを行っている店舗もあり、銀行を身近に感じています。



現役世代のみなさまへ

働く世代に向けた資産形成セミナー。 実践的な金融ノウハウを提供します

人生100年時代を見据えた効果的なノウハウをご提供。また、公的年金の役割の縮小や少子高齢化の進展により老齢給付を主とした企業年金の重要性が増していることから、企業年金を導入している企業へのセミナーも実施しています。



高校生・大学生等のみなさまへ

社会変容も踏まえた若年層へのセミナー。 お金の知識が未来の選択を広げます

成年年齢引下げや学習指導要領改訂を受け、若年層への金融教育のニーズが高まる中、出張授業等を実施。学校の要望に応じ、ライフプラン・資産形成・金融犯罪防止のカリキュラムをセミオーダーメイドで提供しています。



すべての世代のみなさまへ

特殊詐欺などの金融犯罪被害防止セミナー。 自治体や警察署と連携したカリキュラムを提供します

増加傾向にある特殊詐欺などの金融犯罪から身を守るため、幅広い地域でセミナーを実施しています。最近の詐欺事例や地域特性を踏まえた対策を警察・銀行の立場から紹介し、キャッシュレス決済利用時の注意点などもあわせてご案内しています。



CLOSE UP

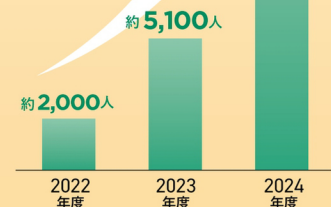
埼玉県内の学校へ、広がる「りそなのセミオーダーメイド型金融教育」

2022年4月より高校でも拡充された金融経済教育。埼玉りそな銀行では埼玉県内の店舗網を活用し、学校から近い店舗の従業員が講師として出張授業を行っています。

●取り組み実績 ※2025年3月末現在

参加者数 約**19,500**人

学生向け出張授業
参加者数の推移 約**12,400**人



埼玉県全域で 出張授業を 開講しております



INTERVIEW

共創社会の ハブの役割

金融リテラシーの向上で安心の社会へ。

朝霞支店 オフィサー 高橋 樹

朝霞支店では、「変化に対応できず信頼を失うことが最大のリスク」「正しいことを行う」という考えを大切に、多様な個性を持った仲間が既存の枠にとらわれず、思いやりと創造性を持って連動する職場を目指しています。

金融リテラシー向上の取り組み

当店ではこれまでに延べ2,000名の小中高生やお取引先の従業員の方々に対する、出張授業や職場体験を通じた金融リテラシー向上に取り組んでまいりました。毎年レポートやご紹介をいただき、関心を持ってくださる方が着実に増えています。

昨年は市内の小中学校に、りそなグループの金融教育動画を紹介するチラシを配布し、これをきっかけに中学校2校からご連絡をいただき、出張授業を実施しました。また、ある中学校からは「特殊詐欺撲滅ポスター」を寄贈いただき、金融教育を通じた良い流れを実感しています。

私自身は、学生時代に金融教育を受ける機会がなかったことから、資産形成や詐欺被害防止など、若年層からのリテラシー向上の重要性を強く感じており、支店全体で力を入れています。

今後について

金融教育を受けていただいた方に人生の節目で「あの時、りそなの人が言っていたな」と思い出していただき、再びご縁を持っていただけるよう、今後も社会・地域・お客さま・従業員の4つの起点で考え、それぞれの持続的な発展を支援し、『地域におけるハブ』となることを目指し、支店一同で取り組んでまいります。



◀寄贈いただいた
特殊詐欺撲滅ポスター

資源を可能な限り長く循環

捨てずに循環・再利用！ 未来へつなぐサーキュラーエコノミー 持続可能な形で資源を最大限に活用



生産活動や消費活動などのあらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図る経済活動。これまでの「大量に作って、使って、捨てる」リニアエコノミー（線型経済）から移行することで、環境と経済が両立する持続可能な社会の実現を目指します。



「食と住」が育む、持続的で豊かな地域社会の暮らしへの挑戦

住 空き家問題へ総合的な解決策を提供。 各地域での有効活用を促進

埼玉りそな銀行は、空き家問題を重要な社会課題と捉え、情報提供やセミナー開催、専用ローンのご案内など多面的な支援を展開しています。自治体や企業と連携しながら、皆さまの大切な「家」の将来と一緒に考え、サポートします。



必要な資金をサポート 官民連携モデルの推進 地域コミュニティ強化



埼玉りそな銀行やラボたまでは、空き家に関するセミナーやワークショップを開催しています。2025年1月には、寄居町と共催でラボたまがワークショップを実施。一般社団法人の協力のもと空き家スゴロクで空き家問題について地域の皆さまと一緒に考えました。空き家対策について考えることで、まちづくりへと繋げています。

食 持続可能な食資源の活用へ。 廃棄物から価値を生む循環利用を促進

食堂の廃棄物を堆肥にし、食堂で提供する米に

取引先2社と連携し、食品残渣を活用した堆肥で育てた米を本社食堂で提供しました。食堂から出た残渣を寄居町の工場で堆肥化、春日部等の田に撒き米を育てる取り組みを実施しました。



ぐるりこ®メニューを本社食堂で提供！



規格外農産物や食品工場で発生する野菜の端材等の「かくれフードロス」に着目し開発した食品パウダー「ぐるりこ®」を、本社食堂でメニューに使用する取り組みを実施しました。

CLOSE UP

情報のハブとしての価値創出

イチゴ農家とビール醸造所を繋ぎ、 地域連携で廃棄イチゴを活かす取組み



農業者・自治体・地域の企業など、各々が、「もっとこうしたら良いのに」という想いを持っていても、一人の力では行動に踏み出せないことが多くあります。

- 「丹精込めて栽培したイチゴだが、収穫時期を過ぎてしまうと廃棄されてしまい残念」
- 「地域の農業をもっと盛り上げていきたい、地域の名産をもっとアピールしたい」
- 「地域密着の取り組みを通じて、新たなファンを獲得したい」

今回、その一人ひとりの“地域を盛り上げていきたい”という共通する熱い想いに共感し、“情報のハブ”として実現に邁進しました。今回の取り組みは、「プロバスケット×農業で何か実現したい」というところからスタート。地域のクラフトビール醸造所や県や市などの自治体、そして農業者へと情報のハブとして協力の輪を広げていきました。廃棄予定のイチゴの活用という未利用資源への取り組みはフードロス削減にも繋がり、農業全体へのプラスの価値の提供であること、また「農業×〇〇」を通じてご協力いただく関係者の方々の未来もプラスになることを強く胸に刻んで取り組んだことが実現に繋がりました。



完成したクラフトビール

アグリソリューションデスクとは

埼玉県の基幹産業である農業を起点に、食料・資源循環などの関連産業までを含めたアグリ分野の活性化に向けた取り組みを行っています。当社およびグループのお客さまネットワークという強みを活かし、農業と興業種を結び付け、新たな化学反応を起こすことで新たな価値を生み出し、皆が成長していくことを目指して取り組んでいます。

INTERVIEW

共創社会のハブの役割

アグリ分野への想い

法人部 アグリソリューションデスク グループリーダー 鈴木 洋介

幼い頃から農業や自然に興味がありました。学生時代には農学を専攻していたこともあり、銀行でいつかは農業ビジネスに携わりたいと思って働いてきました。長い年月がかかりましたが、ようやく一歩目を踏み出せたと思っています。アグリ分野は、生産に加え、流通、食料安全保障、環境や健康への意識、GXや生物多様性など多様なトピックスがあり、想像以上に大きく・急激に変化している分野です。このような難しい環境に直面しているお客さまと一緒に「新たなネットワーク」や「新たなビジネス」づくりを考え、このような難しい環境下でもワクワクできるような取り組みを重ね、「困ったときに頼りにしていただきながら一緒に乗り越えていくパートナー」として認められるよう、活動していきたいと思っています。



くらしにまつわるこまりごとに総合的に対応 くらしコンシェルジュ



お客さまにとってなんでも気軽に相談できる「あんしん」の創出を目的に、家計単位での総合的な相談をワンストップで受付する窓口を設置しました。金利上昇等経済環境の変化に伴い、悩みごとやこまりごとが新たな形で暮らしに表れていく中、お客さまの最善のくらしの実現を応援する「頼れる身近な相談パートナー」を目指します。

- 1 お近くの店舗でもオンラインでも
- 2 127の全有人拠点に設置
- 3 くらしのモヤモヤ解決をサポート

くらしも 経営も。 身近な頼れるパートナー



経営に関する身近なビジネスパートナー 経営支援リーダー

- 1 経営課題に応じた戦略立案と実行支援
- 2 経営改善・事業再生・転廃業支援まで対応
- 3 外部機関との幅広い連携による総合支援

経営支援リーダーは、経営課題を分析し、事業承継や再生・転廃業支援などを通じて、早期の課題解決と成長を支援します。外部機関と連携し、計画から実行・モニタリングまで包括的にサポートします。各店では、こうした活動を自律的に推進する経営支援委員会を月次で開催しており、経営支援リーダーが中心となってノウハウ共有や人材育成を進め、地域社会の発展に寄与しています。

こんなお悩みはございませんか？



お金が思うように貯まらないです
貯蓄で大切なことは何ですか？



金利上昇に備え、住宅ローンを
固定金利に見直した方がいい？



万が一の病気・ケガなどで
家計が苦しくならないか不安です

こんなお悩みはございませんか？



環境変化に対応し、
計画策定の手伝いをしてほしい



円滑な資金調達のために
自社の事業性を評価してほしい



後継者や第三者に事業を引き継ぎ
雇用を維持したい

お客さまと一緒に学びながら、こまりごとを解決

お客さまの話をよく聞き、深く知ることで信頼関係を築いています。会話から「もしかしたらこんなことに困っているのでは」と想像し、質問を重ねることを心掛けています。これまでは金融の相談が中心でしたが、最近は不動産や墓じまいなど「どこに相談すれば良いか分からなかった」というお悩みも増えました。一人で解決できないことは、上司と相談したり提携先と連携したりすることで新たな学びとなり、自身の提案の幅を広げています。今後もお客さまに「困ったときは埼玉りそな銀行」と思ってもらえる、身近な相談相手でありたいです。

北浦和支店 渉外課 くらしコンシェルジュ 請川 楓



▲詳細はこちら

他にも皆さまの身近なこまりごとをサポートしております

埼玉りそなの ライフコンサルティング



これからも自分らしく人生を歩んでいくために、今後予測される、ご自身・ご家族のライフイベントをあらかじめチェックしておくことで安心です。

介護・認知症対策信託 ～資産承継信託～



将来起こりうるリスクに備え、元気なうちに自分のことは自分で決めたい、そんなご要望にお応えするのが資産承継信託です。ご自身のお金の使い道を、今考えておくことで安心です。

暮らしの安心サポート



くらしのこまりごとにお応えするためのサービスや商品等を提供する提携企業をご紹介します。くらしの安心をお届けします。

経営改善支援といえば埼玉りそな一思いをつなぐ伴走者として

現在の職場の前は東松山支店に所属しており、業歴の長い製造業のお客さまが多く、経営改善に悩む方もいました。後継者不在で事業継続を諦めかけていたお客さまの「どうしても事業をのこしたい」という強い想いに触れ、根気強く事業継承先を探索し、事業譲渡の実現に至りました。「廃業を覚悟したが本当に良かった」という言葉は今も心に残っています。現在は公的機関に出向し、事業者や経営者の本音に耳を傾け、「お客さまのために何ができるか」を常に考え仕事に取り組んでいます。これからも、お客さまの事情に向き合い、最適な支援策をお届けできるパートナーであり続けたいです。

埼玉県中小企業活性化協議会 統括責任者補佐(出向中) 平野 香織



▲詳細はこちら

他にも企業の皆さまの持続的な成長をサポートしております

埼玉りそな創業応援 ファンド(エクイティ)



県内の創業企業の投資育成や経営支援に取り組む投資ファンドへの出資を通じて、財務・経営の両面から地域の創業企業をサポートします。

埼玉りそな創業応援 ファンド(ローン)



外部機関による事業計画策定支援と融資後の当社の創業支援デスクによる伴走支援を組み合わせることで、創業企業の成長をサポートします。

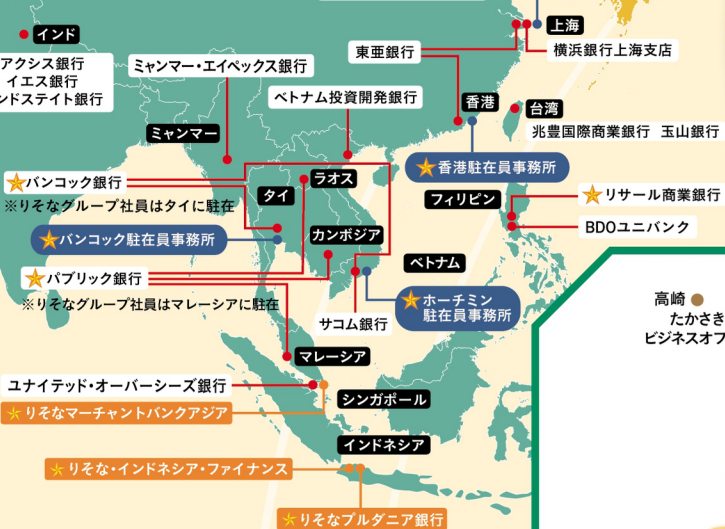
サステナビリティ 関連ファイナンス



簡易コンサルティングサービスやESGに関する目標設定・達成のサポートなど、サステナビリティの取り組み深度に併せたラインナップでお客さまの持続的な成長をサポートします。

海外ネットワーク

- 海外駐在員事務所
- リソナマーチャントバンクアジア
- △ リソナブルグニア銀行(現地合併銀行)
- ▽ リソナ・インドネシア・ファイナンス
- 提携銀行など
- ★ リソナグループの社員が駐在



埼玉県央・北地域

「共創」により身近で
頼りがいのあるパートナーに

農業・商業・工業それぞれがバランスよく広がっている地域です。地域の身近で頼りがいのあるパートナーとして、質の高いサービスをご提供してまいります。

地域営業本部長 石井 良輔



りそなグループ

国内有人店舗数 **822** 店舗

[北海道・東北]	3	[関西圏]	510
[北関東・甲信越]	8	[中国・四国]	1
[中部・東海]	8	[九州]	5
[首都圏]	287		

各店舗の詳細は当社HPをご覧ください

埼玉りそな銀行 店舗のご案内



ネットワーク

埼玉東地域

ライフステージの
あらゆる場面で「共創」

河川や葛西用水などの用水路が街に溶け込み、調和している地域です。ライフステージのあらゆる場面で、お客さまにとって最良のサービスをご提供してまいります。

地域営業本部長 小嶋 啓夫



埼玉りそな銀行

有人店舗数

127 店舗

(うち、埼玉県内124店舗)

※2025年3月末時点

埼玉中央地域

「共創」により
ともに豊かな未来づくり

主要な駅周辺の開発が活発に行われており、交通網の充実した地域です。豊かな未来づくりの実現に向け、最適なサービスをご提供してまいります。

地域営業本部長 田畑 浩司



埼玉県央・北地域

埼玉西地域

こまりと
解決に向け「共創」

自然豊かで商工業が盛んな地域です。地域のお客さまのこまりとを起点に、従来の銀行の常識や枠組みに捉われず新たな価値をご提供してまいります。

地域営業本部長 吉岡 浩司



凡 例

- 埼玉中央地域 支店
- 埼玉東地域 支店
- 埼玉西地域 支店
- 埼玉県央・北地域 支店
- 特定店
- ▲ 住宅ローン相談プラザ 近接・併設店
- ビジネスオフィス
- 主な高速道路
- 新幹線
- JR
- その他の鉄道等

埼玉西地域

埼玉中央地域

埼玉東地域

さいたま市内の店舗



さいたま営業部・東京支店

ネットワークを
活かし「共創」

りそなのネットワークを活かして、持続可能な成長に貢献するサービスをご提供してまいります。

担当役員 井口 淳也



地域とともに共創社会を目指す
埼玉りそな銀行のネットワーク

埼玉県央・北地域

上尾市・伊奈町・桶川市・北本市・鴻巣市・羽生市・行田市・熊谷市・深谷市・上里町・神川町・本庄市・美里町・寄居町・長瀬町・皆野町・小鹿野町・秩父市・横瀬町



地域トピックス



県内66年ぶりの全国植樹祭が開催

2025年5月、埼玉県では66年ぶりとなる全国植樹祭が、秩父ミュージックパーク（秩父市小鹿野町）で開催されました。当社では2024年6月に実施された1年前記念イベントで、埼玉県から協賛に係る木製の感謝状をいただきました。2025年4月から約1カ月間、秩父鉄道7500系1編成のヘッドマークと中吊り広告をジャックし、全国植樹祭を盛り上げました。



AREA VOICE

安心して頼って いただける存在に

行田市は、日本遺産「足袋蔵」が多く残る歴史と自然に恵まれた、地域の絆が強い街です。私は個人のお客さまに対し、資産運用や承継のご相談、自宅の警備や家事代行サービスのご紹介など、さまざまなおこまりごとの解決に取り組んでいます。ご家族の相続について相談された方から「こんなに色々なことを埼玉りそな銀行で相談できるとは思わなかった」とのお言葉をいただいたことがありました。銀行の提供できるサービスを知らない方も多いため、こちらから積極的に情報を発信し、安心して頼っていただきたいと考えています。面談ではお客さまの話を丁寧に伺うとともに、自分自身のこともお話して、信頼関係を築くよう心がけています。「お客さまだったらどう考えるか」を念頭に常に自分事として捉えながら対話することで、「りそなの青木さんに相談したい」と思っていただけの存在を目指しています。

行田支店 渉外課 青木 遥



埼玉東地域

八潮市・三郷市・草加市・越谷市・吉川市・松伏町・春日部市・蓮田市・白岡市・宮代町・杉戸町・久喜市・幸手市・加須市



地域トピックス



“思い出を思いやりへ変える” ランドセル寄贈の取組み

加須エリア（加須支店・騎西支店）で始まった使わなくなったランドセル寄贈の取り組みは2025年で3回目を迎え、集まったランドセルは累計337個となりました。地域団体や取引先企業、県内の学生と協力し、日本全国の外国にルーツのあるご家庭の子どもたちにリメイクしてお届けしています。本取り組みは、地元の小学校の「道徳」をテーマとした授業でも取り上げられています。



AREA VOICE

お客さまの信頼に お応えし続けます

南越谷支店はターミナル駅前に位置しアクセスが良好で、ローンプラザや土日祝も相談可能なセブンデイズプラザを併設していることから、日頃より多くのお客さまにご利用いただいています。私は営業課のマネージャーとして、お客さまや従業員の声に耳を傾け、支店全体の円滑な運営をバックアップしています。窓口にご来店のお客さまには、デジタルチャネルの活用をご案内し、利便性やメリットを丁寧に伝えながら手続き完了までサポートしています。お客さまにご満足いただけたときは、大きなやりがいと喜びを感じます。また、部下からの相談には事務知識を活かしてアドバイスを行い、仲間がやさしく寄り添って対応している姿を見ると、自分も見習いたいと感じることが多くあります。これからも周囲から学ぶ姿勢を大事にしながら成長し、お客さまの信頼にお応えしていきたいです。

南越谷支店 営業課 マネージャー 渡邊 尚子



埼玉西地域

和光市・新座市・朝霞市・志木市・富士見市・ふじみ野市・所沢市・三芳町・川越市・川島町・入間市・狭山市・飯能市・日高市・鶴ヶ島市・坂戸市・東松山市・毛呂山町・越生町・鳩山町・ときがわ町・小川町・嵐山町・滑川町・吉見町・東秩父村



地域トピックス



地域・企業と連携した子ども支援

所沢エリアの4店舗（所沢支店・所沢東口支店・新所沢支店・小手指支店）では所沢市社会福祉協議会と連携し、不要になった本やDVDを回収するBOXを常設しました。ご来店されるお客さまから寄附していただいた本やDVDを業者が買い取った金額が、子ども支援事業に活用されます。



AREA VOICE

真っ先に相談して もらえるパートナーに

川越市は、さいたま市・川口市に次ぐ県内3番目の人口規模を誇り、観光・農業・商業・工業が調和した魅力的な地域です。私は法人渉外として取引先を担当しつつ、マネージャーとして部下の取引先に同行訪問し、お客さまのこまりごと解決に取り組んでいます。一番に相談してもらえる信頼されるパートナーを目指し、自分の付加価値を高める努力を続けています。スピード感ある対応や提案力、発想力、知識、傾聴力などを日々磨き、幅広いご相談に応えられるよう努めています。お客さまから感謝のお言葉をいただいた際は、非常に励みになりました。現在は融資に限らず、様々なこまりごとに関するご相談が増えており、総合的に対応できる力をつけたいと感じています。常に感謝の気持ちを忘れず、お客さまのお役に立ち、地域の発展に貢献できるよう取り組んでまいります。

川越支店兼川越南支店 渉外課 マネージャー 佐藤 一晃



埼玉中央地域

さいたま市・川口市・蕨市・戸田市



地域トピックス



創業と地域の発展を応援

埼玉中央地域の店舗では、創業が活発である地域特性から、各拠点で創業支援セミナーが活発に行われています。市内で創業の経験を持つ経営者から創業の経緯や苦労した話をお聞かせいただいたり、参加者の交流会を開いたり、これから創業を検討している方、創業して間もない方の不安やこまりごとを解消し、創業へ踏み出す後押しをしています。



AREA VOICE

地域社会と仲間の 未来をプラスに

西川口支店は、2024年7月に地域共創拠点としてリニューアルオープンしました。3階には共創空間を設け、地域のこまりごと解決に向けた情報発信を行っています。今年6月には、新規創業のニーズが高いという地域特性を踏まえ、従業員のアイデアから創業セミナーを開催。「新たな横のつながりができて心強い」とのお声もいただきました。環境変化のスピードが速い中で、何から相談すればよいか分からないというお悩みも多く、私たちは銀行の枠を超えた発想で、おこまりごと解決の糸口を提供できる“情報のハブ”を目指しています。また、支店運営においては、一人ひとりが自身の経験や強みを活かし、存在意義を感じられる職場づくりを意識。個の成長がチームの成長へとつながり、お客さま・地域・仲間の未来をより良いものにできるよう取り組んでいます。

西川口支店 支店長 池田 里美



埼玉県からのお知らせ

イノベーション創出拠点「渋沢MIX」

さいたま新都心駅直結のビルに7月25日オープン

約500もの企業の創立に携わった埼玉県出身の偉人である渋沢栄一翁が、適切な人や企業をマッチングすることで企業を成長に導いたことに倣い、埼玉県では、人々が出会い・つながり・共創することで新たなイノベーションが創出される場を目指し、イノベーション創出拠点「渋沢MIX」を開設します。

本施設では「オープンイノベーション」の創出・促進、「スタートアップの創出・成長支援」、「イノベーションを担う人材の育成」の3つをコンセプトに、イノベーション創出のための様々な取り組みを展開します。

本施設には、イベントスペース、コワーキングスペース、ラウンジ、ミーティングルーム、情報掲示スペースなどを設置します。また、様々な専門人材を配置し、利用者同士の出会い、交流を促進することでイノベーション創出を支援します。

※オープンイノベーション
社内外から幅広く技術・アイデアを取り入れ、自社では生み出せない新たな価値を創出する手法



※画像：DENTSU LIVE INC. & TAKEARCHITECTS Co., Ltd. (テイクアーキテクト)



詳細はこちら

こどもの居場所づくり

こどもの居場所づくりを支援

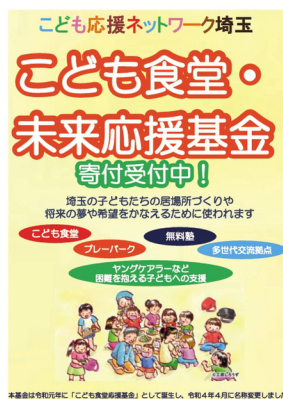
「こども食堂」や「学習支援」「プレーパーク」など、家庭や学校以外の第三の居場所は“こどもの居場所”と呼ばれ、子どもたちが生きる力を得られたり、信頼できる大人に出会えたり、子どもたちにとって大切な場所です。

こどもの居場所は、民間主導の取り組みとして多様な形で広がっている一方、運営団体は様々な課題に直面しており、活動継続のために多くの個人・企業等から支援いただいています。埼玉りそな銀行様におかれましても、社内のスペースを無償で貸し出す「りそな YOUTH BASE」の開設などを通じて、御協力いただいています。

埼玉県では、賛同いただいた市町村や県社会福祉協議会などとともに「こども応援ネットワーク埼玉」を立ち上げ、食材の寄附やボランティアのマッチングなどを行うほか、「こども食堂・未来応援基金」を活用し、個人・企業等からの寄附金の受入れ及び居場所の運営団体等への支援を行っています。

居場所づくりを通じて子どもたちの未来を応援するため、これらの取り組みに是非御参加ください。

こども応援 ネットワーク埼玉



こども応援
ネットワーク埼玉



こども食堂・
未来応援基金

埼玉りそな銀行 NEWS

「つながるSAITAMA」大賞受賞

少子高齢化、単身世帯の増加といった社会環境の変化により、地域における人々との「つながり」の希薄化が指摘される中、孤独・孤立は人生のあらゆる場面で誰にでも起こり得る問題です。埼玉県では、「つながり」が感じられる地域づくりを推進するため、地域の多様な主体の連携による孤独・孤立対策の取り組みを「つながるSAITAMA大賞」として表彰しており、令和6年度埼玉りそな銀行がりそな YOUTH BASEの取り組みで優秀賞を受賞しました。



詳細はこちら

県庁支店 魅力ある埼玉を 「共創」

地元埼玉とともに発展する銀行を目指し、「日本一暮らしやすい埼玉」の実現を後押ししてまいります。

担当役員 加藤 和徳

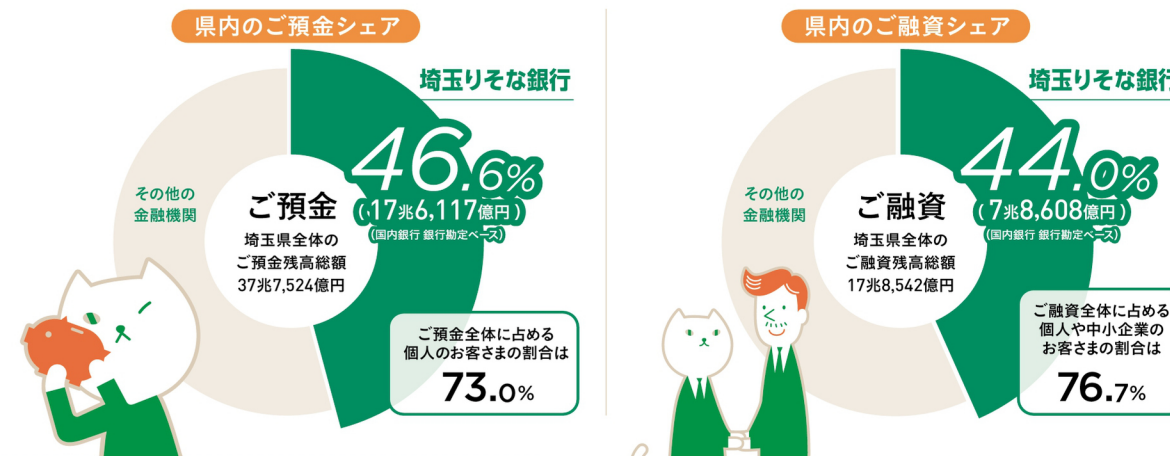


2025年3月期 財務・非財務ハイライト

▼ 財務情報

おかげさまで県内トップシェア

ご預金・ご融資の県内シェアはともに40%超を確保



安定的な収益力と高い健全性

県内トップの地域金融機関として、安定的な収益力と高い健全性を維持



▼ 非財務情報

グループサステナビリティ長期目標関連実績			グループ ESG 評価	
リテール・トランジション・ファイナンス	カーボンニュートラル	女性活躍推進	FTSE	3.6
グループ 累計取扱高 5.7兆円	グループ CO ₂ 排出量 2013年度比▲76% (埼玉りそな 自社物件再エネ比率100%達成)	女性ライン管理職比率※1 34.4%(埼玉りそな銀行43.2%) (参考) 男性育児休業取得率※2 97.0%(埼玉りそな銀行102.2%)	MSCI	A
			S&P	6
			MSCI (WIN)	8.4
			Morningstar Group1	
			2025年7月1日現在	

※1 部下のいるマネージャー以上の職層

※2 「年度中に育児休業取得を開始した人」÷「年度中に子どもが産まれた人」の割合

埼玉りそな銀行 サステナビリティ活動実績

- ・埼玉県関連基金寄付：累計1億円超
- ・金融教育：38千人(2022・2023・2024年度)
- ・フードドライブ：91拠点で実施・累計約37千点寄贈

「食品ロス削減推進月間」である10月から「子供・若者育成支援強調月間」である11月にかけて、埼玉県が実施する「埼玉県県下一斉フードドライブキャンペーン」にも多くの支店が参加しました

情報ディスクローズを
詳しく知りたい方へ

財務情報・IRライブラリー▶



ESGデータ集▶

